

2014 年度前期 工学部都市環境システム学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1E016101	振動工学	3 年前期月曜 4 限	関口 徹他	T1E 1
T1E020101	通信工学概論 I	3 年前期月曜 3 限	塩田 茂雄	T1E 2
T1E057101	建築計画 I	3 年前期金曜 6 限	小林 秀樹	T1E 3
T1E061101	数理計画法	3 年前期水曜 6 限	須貝 康雄	T1E 4
T1E065101	景観計画	3 年前期水曜 4 限	宮脇 勝	T1E 5
T1E073101	環境リサイクル化学	3 年前期木曜 6 限	大坪 泰文他	T1E 6
T1E077001	構造力学 I	2 年前期金曜 6 限	(塚越 英夫)	T1E 8
T1E084101	国土・交通計画	3 年前期金曜 5 限	丸山 喜久	T1E 9
T1E091001	建築計画 II	3,4 年前期金曜 3 限	(大川 信行)	T1E 10
T1E096001	都市空間工学演習 I	3 年前期木曜 3,4 限	宮脇 勝他	T1E 11
T1E097001	都市環境情報演習 I	3 年前期火曜 4,5 限	荒井 幸代他	T1E 12
T1E103001	材料実験演習	3 年前期火曜 7 限	(高津 比呂人)	T1E 13
T1E107001	材料の力学と設計	2 年前期水曜 2 限	佐藤 建吉	T1E 14
T1E108001	環境エネルギーシステム	3 年前期金曜 4 限	中込 秀樹	T1E 15

授業科目名	: 振動工学
担当教員	: 関口 徹, 中井 正一
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1E016101
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 67 人 (回収率 51%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 32 件)

平均 4.3

気を付けていたつもりではあるが, 必要であればマイクの使用を検討したい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 31 件)

平均 3.8

具体例を増やすなどして, より理解しやすくなるように努めたい。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 32 件)

平均 3.9

できるだけ多くの学生に振動工学について興味を持ってもらえるようにしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 関口 徹

授業科目名	: 通信工学概論 I
担当教員	: 塩田 茂雄
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1E020101
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 64 人 (回収率 52%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 29 件)

講義ノートは概ね好評だったが、来年度に向けてさらに改良したい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 30 件)

学科平均に比べてまだ低いので、講義の内容はもう少し絞りこみたい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 30 件)

昨年度に比べて満足度が大きく向上したので、来年度も基本的に今年度のスタイルを踏襲する。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

来年度は教科書を指定する予定。

作成(者): 塩田茂雄

授業科目名	: 建築計画 I (旧名称「建築計画」)
担当教員	: 小林 秀樹
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 6 限
授業コード	: T1E057101
授業アンケート	: 回答者数 29 人 / 受講者数 66 人 (回収率 44%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 28 件)

声が聞き取りにくいとの意見がみられた。教室のマイクが音が割れるため音量を下けているが、大教室のため受講生に聞き取りにくくなっている。来年度から教室の変更を検討したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

現在の授業方針を維持する。なお、受講生の成績にバラツキがあるので、中間段階で成績不振学生への注意喚起を行うことを検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 小林秀樹

授業科目名	: 数理計画法
担当教員	: 須貝 康雄
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 6 限
授業コード	: T1E061101
授業アンケート	: 回答者数 16 人 / 受講者数 33 人 (回収率 48%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 14 件)

全体平均 4.44 に対して 4.93 の評価を得ている。黒板にはなるべく大きく見やすい文字を書くことを意識した結果、ほぼ全員から「見やすかった」との評価になったと考えられる。ただし、「改善すべき点」に数式の添字が見にくかったとの意見があり、今後はさらに注意して板書したい。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 14 件)

全体平均 4.26 に対して 4.93 の評価を得ている。学生に理解してもらうために、例題や演習問題をなるべく多く取り入れる授業を行っているが、その結果が全体平均より高い評価を得ていると考えられる。理解を助けるための新しい例題を取り入れる方針を続ける予定である。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 14 件)

全体平均 3.88 に対して 4.21 の評価を得ている。上記の Q5 や Q9、上記には挙げていない Q3、Q10、Q11 を総合した結果がこの設問の評価に現れていると考えられる。また、授業方針として、説明すべき項目を広く浅くではなく、いくつかの項目を重点的にやや深くすることにより、学生が理解を深められたと考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義に関する設問 Q1 ~ Q16 のうち、全講義の集計結果と比較できる設問 Q2, Q3, Q5, Q7, Q9, Q10 ~ Q16 について、Q12(あなたはこの授業にどの程度出席しましたか?) 以外のすべてが全体平均よりも高い評価を得ている。授業目標の達成度に関しては、限られた講義時間でほぼ当初の予定通りの内容を説明できた。また、受講生の学習到達度に関して、最後に実施した期末試験では受験者 32 名の平均点は 75.3 点であり、この講義で学ぶべき内容をほぼ理解できていると考えられる。

3. その他のコメントや連絡事項

アンケートの回収率は 48% でした。多くのアンケートに回答しなければならない学生の皆さんは大変でしょうが、他の科目も含め、なるべくの授業評価アンケートに回答するよう、お願いします。

作成(者): 須貝康雄

授業科目名	: 景観計画
担当教員	: 宮脇 勝
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 4 限
授業コード	: T1E065101
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 59 人 (回収率 47%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか？ (回答 26 件)

平均 4.38 という回答から、授業レポートの作成が、各自の理解を助けているものと考えられる。また、自由回答においても、同様の意見が見られた。今後も、レポートの作成を継続したい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 27 件)

平均 4.19 という回答から、よく理解できている人の割合が高いものと考えられる。また、この点について、ネガティブな回答者が一名もいなかった。意欲的に学習したい学生が多く集まっていたものと考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 27 件)

平均 4.52 という回答から、極めて高い水準で、この授業に満足している学生が多いものと考えられる。今後とも、満足度の高い授業を継続したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

例年通り、高い理解度と高い満足度が確認された。自由回答欄では、法令や試験に対する戸惑いも見受けられたが、教科書をしっかり読んで対策をしておいて頂ければ、十分理解できるように配慮してあることがわかるはずである。試験を活用して、授業の復習を一度行うことをお勧めします。

3. その他のコメントや連絡事項

都市空間工学演習 1 と平行して、この景観計画の授業は行われています。専門知識を講義で習得しながら、演習の選択者は、自身による提案、計画、設計を演習において発揮して頂きたいと期待しています。

作成 (者) : 宮脇 勝

授業科目名	: 環境リサイクル化学
担当教員	: 大坪 泰文, 廣瀬 裕二
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 6 限
授業コード	: T1E073101
授業アンケート	: 回答者数 7 人 / 受講者数 20 人 (回収率 35%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 7 件)

(4.43)

スライドの見やすさ (Q5) については適宜講義室後方に立って確認するなどした甲斐もあり、回答者全員から支持 (5.00) を頂いた。一方後方で声が聞き取りにくいとの指摘があった。受講者数が 20 人と少数であったためマイクの使用をしなかったが、事前の確認をほとんど行わなかったため次回はスライドともども対応したい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 7 件)

(4.43)

受講者数 20 名、回答者数 7 名と回答数は少ないものの、高い評価を頂くことができた。都市環境システム学科では化学の履修科目が少なく、化学と関係のない領域の志望者や苦手意識を持っている人もいと想定される中でこの評価はうれしく思っている。さらなるブラッシュアップを目指したい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 7 件)

(3.57)

挙手によるアンケートから今回社会人受講生はいなかったものの、高専からの編入生で化学 II を履修していない学生がいたことからこの学生に確認を取りつつフォローを行った。このことは他の受講者の基礎確認に役立ったものと考えている。

また、毎回授業の際には資料を配っているが全てを記載するのではなく書き込みによって理解を深められるよう工夫している。

授業の満足度に対し理解度の評価が低いが、シラバスに「設問はすべて説明問題、環境問題を化学の基礎に基づいて説明できているかが評価のポイント」と記載されている試験を前にどのような勉強をすればよいか分からないことが理由の 1 つと考えている。適宜授業中に話しているが、細かい用語などはインターネットで容易に検索できる現代においては 1 つ 1 つの事象を丸暗記するのではなく、いかに説明できるかが重要である。しかし暗記に頼りがちな勉強に慣れていると戸惑う面もあったと推測している。受講生により一層のフォローを行いたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

雑学を紹介することについては賛否両論の意見があった。化学と言う学問は様々な現象・事柄についてそれを説明することが求められるため、どうしても多くのことについて説明せねばならず、それを淡々と説明しても十分な興味の上や理解にはつながらない。

例えばジェット燃料と灯油が同一と言う話はそのこと自体を覚える所までは求めない (適宜指示している) もの、石油 (燃料) はその沸点の差で蒸留によって分けられるということの理解を助けるものであると考えている。

化学が得意でない受講生にも十分な理解をしてもらうための配慮と理解いただきたい。次回はこのことについてさらに説明を行う。

3. その他のコメントや連絡事項

4年生に上がると「卒業論文(計画)」を作成する必要がある。化学に限らず現象に対し論理的に説明する能力が必要である。記述試験に抵抗がある人も多いと思うが、いかに理解できているか(+文章として表現できるか)が試験の採点を通じ明確となった。

自分で授業内容に納得していくという勉強が単なる知識の獲得のみならず、論理的思考を鍛えることにも繋がると考えている。次年度以降受講者も臆せず受講して欲しい。

作成(者): 廣瀬 裕二

授業科目名	: 構造力学 I
担当教員	: 塚越 英夫
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 6 限
授業コード	: T1E077001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 65 人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 32 件)

授業では、教科書の内容をスライドにして力の流れや釣合いの解説、例題、演習問題の解き方を説明している。各自が実際に問題を解くのは構造力学演習 I で行うので、必ず出席して手を動かしてみること。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 32 件)

授業の一環として中間試験、期末試験を行っているが、各自は自宅で実際に問題を解いてみて試験対策をしっかりと行う必要がある。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

構造力学 I は建築構造の基本であることを認識して授業に臨むこと。

3. その他のコメントや連絡事項

特になし。

作成 (者): 塚越英夫

授業科目名	: 国土・交通計画
担当教員	: 丸山 喜久
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 5 限
授業コード	: T1E084101
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 72 人 (回収率 42%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 28 件)

講義ノートは Web へ掲載しており, 講義内容の理解に役立ったものと考えられる .

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 28 件)

がんばって大きな声を出した成果だと考えられる .

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 27 件)

満足した人が多くてよかったです .

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 丸山喜久

授業科目名	: 建築計画 II
担当教員	: 大川 信行
年次・開講時限	: 3,4 年前期金曜 3 限
授業コード	: T1E091001
授業アンケート	: 回答者数 31 人 / 受講者数 56 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 30 件)

講義室備え付けのプロジェクトだと図面が十分に表現されないので, 何らかの改善をしたいと思えます。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合, この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されておりましたか? (回答 6 件)

以下 Q28 までは本講義には関係ないので参照不要です。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 3 件)

今後は実務的な知識の部分のボリュームを少し増やしたいと思っています。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎回熱心に授業に臨んでいた学生がほとんどで, 最後のレポートでもその熱心さが伝わってきました。

3. その他のコメントや連絡事項

単に必要な知識の解説ではなく, この授業によって一つでもみなさんの探求心をそそるきっかけとなるものが提供できればという思いで授業を行ってきました。次年度はもう少しバランスに気をつけて授業を組み立てたいと思います。

作成 (者): 大川信行

授業科目名	: 都市空間工学演習 I
担当教員	: 宮脇 勝, 山内 彩子, 黒田 潤三, 関口 徹, 江尻 憲泰
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 3,4 限
授業コード	: T1E096001
授業アンケート	: 回答者数 6 人 / 受講者数 27 人 (回収率 22%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 5 件)
アンケートの回答者が 5 名と少ないとしても、平均値 5 という回答者の全員は、授業の準備、復習に相当の時間をかけていたことは、自他共に認めるものであり、演習中に教員側にもよく理解できました。演習の選択者は、総じてよく努力していたことが認められます

Q8. Q7 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。 (回答 3 件)
演習室の環境が悪いと答える回答者が多かったのは、今年の特徴である。原因と考えられるのは、近くで新棟の建築工事が絶えず行われていたためと考えられる。具体的に、外部からの音のうるささ、空気の悪さが指摘されている。残念で、致し方ないと考えますが、来年は、工事が完了しているはずで、こうした評価にならないように、注意を払いたいと考えます。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 5 件)
平均 4.40 という回答であり、理解度はかなり高いと評価される。ただし、回答者が 5 名しかいなかったため、正確とはいえないかもしれない。一方、この演習の最終提出物の評価は、皆さんとても良好で、教員から見れば、理解度は高いものと見ています。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年の学生は、皆さん高いレベルで結果を出していたことが印象的でした。いろいろな視点から、どんどん勉強をして、自身の壁を突破して頂きたいと考えます。

3. その他のコメントや連絡事項

演習は大変なものではあるが、各自の能力を高める効果があり、進路や就職に大きく影響するものです。ぜひ、こだわりを持って、チャレンジして頂きたい。特に、最終回のプレゼンには、すべて暗記するほど練習すると良いでしょう。

作成(者): 宮脇 勝

授業科目名	: 都市環境情報演習 I
担当教員	: 荒井 幸代, 丸山 喜久, 和嶋 隆昌, 荒井 邦晴, 小林 秀樹, 檜垣 泰彦, 小倉 裕直, 吉村 博幸
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 4,5 限
授業コード	: T1E097001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 38 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 18 件)

実施初年度で心配したがおおむね満足という結果で安心しました。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていきましたか? (回答 14 件)

プログラムに慣れていない当学科学生にとっては初歩の初歩の質問が多数ありました。TA の増員も検討しますが、予習に費やす時間も増やしていただき、相互に協力して理解を高められる演習にしていきたいと思います。よろしく。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 18 件)

理解度について、「いいえ」という回答ゼロ。そこそこ理解をしていただけたということで安心しました。TA を増員し、予習復習を徹底していただくことによってこの項目をクリアできるよう担当者側も努力いたします。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

一部の受講生の私語が目立ち、他受講生が迷惑を被っているというコメントが目立った。小学生でもないのに担当者(教員)が「静かにしてください」というのが必要なほどレベルが低い大学ではないはずである。あまりやりたくはないが、これらの学生については受講を遠慮していただき、部屋の外に出ていただくなどで対処したいと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

「都市環境システムは「領域横断」の学科である。」はずが、単一の専門領域だけを選択する傾向があるため、結局「狭く、浅く」しか学ばない状況に教員一同が危惧を感じています。プログラム(特に本演習で扱った統計処理)を使わない専門分野は一つもない状況で、これらに触れる機会を強制的にでも作る必要がありました。「他学科に比べて専門性がないので就職が心配」などと漏らす学生ほど「勝手に了見を狭くしているように思います。昨今の社会では、全体を見る力が要請されていることを知った上で、学科の特性を生かしてまずは視野を広げて欲しいと願います。

作成(者): 荒井 幸代

授業科目名	: 材料実験演習
担当教員	: 高津 比呂人
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 7 限
授業コード	: T1E103001
授業アンケート	: 回答者数 18 人 / 受講者数 40 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 15 件)

OHP やスライドの字を大きくするようにします。また、見づらい場合は、前の方の席で聴講していただくようお願いします。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 15 件)

建築の構造体は天井や壁などの仕上げに隠れてしまい、見えないことが多いので、イメージしづらかったかもしれません。理解を助けるような写真等を教材に取り入れていくようにしましょう。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 3 件)

演習については、次の講義の時に解説するようになりたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

構造力学あるいは材料力学の基礎をある程度理解していないと、授業の内容が難しいと感じる可能性があります。受講するにあたっては、構造力学の復習をしておくことが望まれます。また、わからない場合や疑問がある場合は、講義が終わってからでも良いので、どんどん質問してください。

3. その他のコメントや連絡事項

建築や土木構造物など社会基盤施設を構成する材料の力学的性質を知ることが、将来デザイナーになろうと考えている人にとっても、必要不可欠だと考えます。”応力”・”ひずみ”・”梁のたわみ”などあまり難しく考えず、講義を通して理解を深めてもらいたいと思います。

作成 (者): 高津比呂人 (近藤入力)

授業科目名	: 材料の力学と設計 (旧名称「材料力学」)
担当教員	: 佐藤 建吉
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1E107001
授業アンケート	: 回答者数 22 人 / 受講者数 40 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 21 件)

材料の力学と設計という科目に変えたが、身近な対象を前提にし、材料力学の応力とひずみ、弾性係数、伸びや曲げなどの変形、そして強度に対する考え方の獲得を重視した。講義後、 σ 、 ϵ のテストプリントで、出席調査の代わりとした。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 21 件)

OHP は初回しか使わなかった。式などの導出を板書し、学生も式の導出をするための方法の、一例を、板書し示した。難しい例は、あまりない。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 21 件)

基本的には、身近なものを対象にした。山と谷、そして橋、鋼のワイヤーによる蝶結び、アルファベットの文字の図形などは、身近かも…。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

内容は、身近な「材料」(たとえば、鉄やアルミニウムなど)を用いて、何かを「設計」するときの、変形や強度、その形状や寸法を決めるときの、「力学」関係を取り上げている。

そのための基本的な考えを、例題としての対象について、述べている。

そうした事例において、いわゆる、「材料力学」の用語とその概念、それが設計で必要で役立っていること、その単位や数値について、理解(納得して使える)ことが、到達度である。

答えを出すことだけでなく、設計することの楽しみを感じて欲しい。

3. その他のコメントや連絡事項

安全安心は、わたしたちの身近なところにある「もの」…建物、乗り物、構造物、商品などが、その目的・機能を発揮してのことです。それに、合理性をあたえるものが、「材料」の「力学」と「設計」です。

そのための基本的・要素的な考えを、自身が身につけてください。それは、小学や中学でマンナんだことの一般化や基準化という力学演習であり、現実と理想を独自性や創造性を活かして導く設計という取り組みの入口が、この授業であるでしょう。

作成(者): 佐藤建吉

授業科目名	: 環境エネルギーシステム (旧名称「環境エネルギー工学」)
担当教員	: 中込 秀樹
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 4 限
授業コード	: T1E108001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 69 人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

受講生からのコメントとしては、配布資料の全部を教えることができなかったが、「他の部分を家で読むのが面白かった」ということにて配布した甲斐があった。また「参加型の授業でよかった」ということに対して、「指名するのではなく、手を上げて答えたいこともあるので、そういう機会を設けて欲しい」との意見もあった。外部からの講師の話は概ね好評であり、「現場の生の話が聞けてよかった」、「実際のプラントに是非見学に行ってみよう」などがあった。またある学生は講義で紹介した北海道のプラントに実際に見学に行ってきたので、見学記を授業の中で紹介してもらった。一方、途中退席してしまう学生もいたように、最初のみでなく講義終了時にも出席を取り直したり、毎回簡単なレポート等を出してもらったほうが良いかもしれない。また指されることで緊張感が持続できたとの意見もあった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

都市環境基盤工学は廃棄物、リサイクル、エネルギー問題などの環境に関わる基本事項を勉強することを目的としている。環境工学は多くの学問領域からなりたっており、基礎学問を積み上げていくには学ぶべきものが多すぎると思われる。従って学部三年というまだ若い学生たちを対象に、世の中で現実に問題となっている事柄を見せることにより、興味のあるジャンルや事象をまず選んでもらうことが講義の狙いである。その上で、その中の技術課題を解決するための基礎学問を会得してもらいたいことを望んでいる。従って、講義では折に触れて技術の最先端領域にて実際に活躍している方々にも来て頂いて話をしてもらいたい機会を作っている。それでも一回 90 分×半年分の講義の中で伝えられることが少ないことが大きな悩みである。全ての講義、演習においては、できるだけ学生達にも授業に主体的に参加してもらいたいことを行っている。とはいっても基礎知識の無い状態から始めるので、最初はテキストを声を出して読むことからスタートするが、最後のほうではかなり積極的に意見を述べたり、議論を戦わせたりすることができるようになる。また最初は声も小さかったり、下を向いていたりする者が多かったが、授業が進むに連れて大きな声ではっきりと発言できるようになっていく。

3. その他のコメントや連絡事項

以上を踏まえて、さらに学生たちに興味を持てる授業へと発展させることと、毎回小レポートを行う等のきめ細かな対応を行って、より緊張感と理解度を深めていきたい。本当は後半の授業では、小グループに分けて議論を行うなどをやりたいのだが、受講生が多いのでままならない面がある。また半年の講義時間内でやれることの少なさは大きな悩みである。学生たちも多くの授業を抱えて忙しいとは思いますが、プロジェクト研究のように各人何かテーマを決めて半年間に渡っている調べることで、より理解が深まるであろう。また今後の基礎学問の習得も忘れずに願いたい。

作成 (者): 中込 秀樹